

新型コロナウイルス感染症影響調査 (概要)

	頁
1 概要	1
2 主な結果	1
3 コロナが来訪者管理戦略の「望ましい富士登山の在り方」実現に向けた指標・水準に与えた影響	2
【参考】望ましい富士登山の在り方の実現に向けた指標	3

新型コロナウイルス感染症影響調査

1 概要 (2022年6～8月において、2021年開山期の状況について調査を実施)

区分	山小屋調査	登山ガイド調査	登山意識調査
調査方法	アンケート (web又は郵送)	ヒアリング	webアンケート
調査対象	五合目以上の山小屋40軒 回収数 31軒 (回収率77.5%) ※各登山道における組合・団体を対象に 情報補完のためのヒアリングを実施(9名)	各登山道におけるガイド事業者 の組合・団体及び一部事業者を 対象に実施 (計5回8名)	富士登山に興味のある成人 (楽天インサイトモニター) 回収数 1,000人

2 主な結果

区分	内容	
コロナによる登山者の変化	山小屋調査	<ul style="list-style-type: none"> 各山小屋の宿泊定員は平均で概ね50%に抑えられた。 (平均宿泊定員数は、[2019年]153人→[2021年]75人) 2021年の山小屋宿泊者数は大きく減少しており、コロナ前の概ね3分の1に落ち込んだ。 (平均総宿泊者数は、[2019年]3,805人→[2021年]1,195人)
	登山ガイド調査	2021年は利用者が減少し、登山ガイドの利用が無かった日も確認された。
	登山意識調査	混雑をできるだけ避けながら登山を行うことも想定され、混雑回避策の一つとして日帰り登山が増える可能性がある。
利用者に対するコロナ対応の状況	山小屋調査	大半の山小屋がコロナ対応を「徹底できた」「概ねできた」と回答した。
経営面のコロナ対応の状況	山小屋調査	従業員数の削減(「3~4割減らした」が最多で38.7%)や宿泊料金の値上げ(「1~2割上げた」が最多で55.2%)などの対応をしていた。
コロナ対応で活用した行政からの支援に対する意見	山小屋調査	多くの山小屋で行政からの支援(持続化給付金、その他の自治体による貸付や給付金)が活用されていた。

区 分	内 容	
今後の方向性について	山小屋調査	今後の山小屋の宿泊定員及び宿泊料金については「未定」を含めて各山小屋の意向は分かれており、今後の動向について注視していく必要がある。
	登山ガイド調査	今後の値上げの必要性や団体以外の個人利用へのシフトの必要性を挙げる声が聞かれた。
	登山意識調査	登山届の義務化や1日当たりの入山可能人数の制限、ガイド1人当たりのグループ人数の制限、事前予約制等について、富士登山に関心のある層から賛成側の意向が高かった。
植生等の自然、登山道・地表等の地質面で感じられた変化	「山小屋調査」及び「登山ガイド調査」では、コロナの感染拡大に伴う閉山、あるいは登山者数の大幅な減少によって、富士山の植生等の自然、登山道・地表等の地質面での影響・変化は確認されなかった。	

3 コロナが来訪者管理戦略の「望ましい富士登山の在り方」実現に向けた指標・水準に与えた影響

区 分	内 容
十七世紀以来の登拝に起源する登山の文化的伝統の継承に関する指標群	モニタリング調査※の結果では、コロナ前と比較すると「伝統的な登拝の登山形態と同様に、山小屋で休息してから山頂で御来光を拝む登山者」の割合は増加傾向にあるが、今回の調査で実施した山小屋へのヒアリング結果では、山小屋で休息しない夜間での登山者が増えているという意見も出ており、コロナが指標に明確な影響を与えたとは断定できない。
登山道及び山頂付近の良好な展望景観に関する指標群	コロナ前同様、2021・22年のモニタリング調査の結果も景観阻害や展望景観の負の影響はなく、今回の調査結果とも一致しており、コロナによる影響は無かったと推察される。
登山の安全性・快適性の確保に関する指標群	モニタリング調査の結果では、「登山道や山頂付近でゴミをよく見かけた登山者」及び「山小屋やトイレなどの登山者への支援施設に不満を感じた登山者」の割合は、2019年と比較して2021・22年は大幅に減少した。コロナによって登山者数が大幅に減少したことが要因であったことが推察される。

※モニタリング調査：富士登山者を対象に、富士山世界文化遺産協議会が毎年6日程度実施しているアンケート調査

【参考】望ましい富士登山の在り方の実現に向けた指標

* 着色している項目部分は、保全状況報告書に「望ましい富士登山のあり方」の定義として記載済み

望ましい富士登山の在り方		指 標	登山口	実 績			水 準 (2024年の目標値)	モニタリング方法
視 点	区 分			コロナ前	コロナ後			
				2019	2021	2022(速報値)		
			登山者数	235,646人	78,548人	160,145人		
			モニタリング回答者数	1,493人	1,083人	1,392人		
十七世紀以来の登拝に起源する登山の文化的伝統の継承	頂上付近で御来光を拝む場合には、途中の山小屋で宿泊・休憩していること	伝統的な登拝の登山形態と同様に、山小屋で休息してから山頂で御来光を拝む登山者の割合	全 体	77.3%	80.9%	88.8%	80%以上	◎登山者アンケート [分母は山頂で御来光を拝んだ(見た)登山者数]
	特定された山麓の巡礼路・登山道からの登山が行われていること	古くからの巡礼路としてルートが特定されている吉田口登山道における山麓からの登山者の割合	吉 田	9.3%	5.6%	7.5%	15%以上	◎吉田口五合目登山者数カウント [分母は吉田口八合目登山者数カウント]
	山麓の神社・霊地等と登山道とのつながりが認知・理解されていること	山麓の神社や湖などを巡ったのちに富士登山をする文化的伝統を知っている登山者の割合	全 体	43.1%	41.9%	42.5%	50%以上	◎登山者アンケート [以前から知っていた/今回の登山・訪問で知った人の割合]
		富士山に「神聖さ」を感じた登山者の割合	全 体	83.2%	88.3%	86.6%	90%以上	◎登山者アンケート [感じた/少し感じた人の割合]
登山道及び山頂付近の良好な展望景観の維持	山小屋・防災関連の施設等の登山者のための施設が自然と調和していること	自然と調和しない人工構造物による登山道沿いの景観阻害	全 体	なし	なし	なし	非調和的要素が予見 又は 発見されない	◎文化財パトロール・レンジャーによる視認 ◎文化財保護法・自然公園法の現状変更申請
	浸食・植生等の変化による展望景観への影響が抑制されていること	五合目以上における登山道の浸食や植生等の変化による展望景観の変化	全 体	なし	なし	なし	負の影響が予見 又は 確認されない	◎各登山口五合目から山体を観察
登山の安全性・快適性の確保	登山装備・登山マナー等が理解されていること	登山道や山頂付近でゴミをよく見かけた登山者の割合	全 体	22.4%	17.6%	14.0%	15%以下	◎登山者アンケート
		人的要因による文化財き損届の件数	全 体	0件	0件	0件	0件	◎特別名勝・史跡富士山に係る文化財毀損届(五合目以上)
	過剰な登山者数による混雑・危険・不満を感じない登山ができること	吉田口から登山し、誤って須走口に下山した人の割合(須走口五合目富士山ナビゲーター対応実績)	吉 田 須 走	0.61% (936人)	0.49% (266人)	0.43% (404人)	0.4%以下	◎須走口五合目ガイド対応者数 [分母は吉田口八合目登山者数カウント]
		山小屋やトイレなどの登山者への支援施設に不満を感じた登山者の割合	全 体	21.4%	10.0%	12.6%	15%以下	◎登山者アンケート [とても不満/やや不満の割合] (※山小屋とトイレの不満を感じた割合のうち、不満度が高い方の数値を記載)
		夏山期間を通じて著しい混雑が発生する登山者数/日*を超えた日数 * 吉 田 口:4,000人/日 富士宮口:2,000人/日	吉 田 富士宮	6日 3日	0日 0日	0日 0日	3日以下 2日以下	◎八合目登山者数カウント [混雑の許容度、危険を感じた割合 等]